

## 優秀賞

# 山口県長門市立俵山小学校

# 「俵山地区合同体育祭」

## 学校紹介

本校は、自然豊かな山間に位置する、完全複式学級の学校です。学校・地域・家庭が一体となって子どもたちのよりよい教育のために力を合わせて教育活動に取り組んでいます。毎年秋に幼稚園、小学校、地域の3つが合同で体育祭を行っており、地域や保護者の方に声援をいただきながら児童が一生懸命競技や演技に取り組んでいます。

## 取組概要等

### 【取組概要】

障がい物競走「Road to 東京～希望の道をつなごう～」は、オリンピックで行われる競技や聖火リレーの要素などを含んだ障がい物をクリアしていく競技である。ゴール前ではオリンピックシンボルを花飾りで作成するために、ひとりが一つの花飾りを取り付けてゴールする。最終走者が走り終わると、オリンピックシンボルが完成する。

### 【取組のねらい】

オリンピックについて、児童が興味関心を抱くことができるようにした。また、地域の方も観覧してくださっているので、東京2020大会について知ってもらうよい機会となると考えた。

### 【創意工夫した点】

従来行っている障がい物競走と大きく変更せず、オリンピックの競技要素と関連付けるようにした。児童も教師も準備や取組への負担感が少なくなるようにした。障がい物として取り上げた競技は、柔道、水泳、バレーボール、体操の4つである。バレーボールは、棒に風船を取り付けてぶらさげておき、その風船めがけてジャンプしてアタックするようにした。そしてくじをひき、4種類の大きさの違う模擬トーチを用意し、くじを引き書いてあった大きさの模擬トーチを持って、コーンを1周するようにした。聖火に見立てた部分が落ちないように慎重にコーンを回る。最後にオリンピックシンボルの一部を張り付けて、全員がゴールすると完成するようにした。

### 【取組結果や効果】

練習も本番も一生懸命に競技に取り組む児童の姿が見られた。オリンピックでは色々な競技があることや、聖火についても知る事ができた。完成したオリンピックシンボルは、今でも校内に掲示しており、色の意味やオリンピックの歴史を考えるよい機会になっている。競技を地域の方にも見ていただく事ができ、地域の方も東京2020大会への関心が高まったように思う。

### 【来年度以降の展開予定など】

今後さらに東京2020大会への機運が高まってくると、児童も今回の経験を想起して意識が向きやすいただろう。来年度もオリンピックのムードの高まりを受けて、競技内容を考えて取り組んでいきたい。

## プログラムの様子



高く跳んで、アタック！  
バレーボールに見立てた障がい物。地域の方が棒を持ってくださるなど、色々なところで手伝いをしていただいた。



一番小さい模擬トーチは持ちやすいですが、上にのせている赤玉が不安定だったようで、落とさないように慎重に進んでいた。



くじに書かれていた大きさの模擬トーチを持って走る。一番大きい模擬トーチは三角コーン。低学年の児童は持ちにくそうだったが、高学年はスムーズに運んでいた。



ひとり一つ花飾りを付けてゴール。だんだんとオリンピックシンボルに見える。マジックテープを利用することで落ちない工夫を施した。

## 東京2020アスリート委員会からのコメント

全員参加でオリンピックシンボルを完成させる点や、模擬聖火の大きさはくじ次第であり、最後まで勝敗が分からないといったアイデアや創意工夫が素晴らしい取組でした。

## 受賞のコメント

特別な準備や練習をした訳ではなく、例年通りの内容にオリンピックと関連付けた内容を取り入れました。先生方のアイデアと、地域の方のサポートのおかげでこの競技に取り組むことができました。